

調査報告書

- 1 とき：2012年5月18日
- 2 行先：名古屋市環境科学調査センター
- 3 参加者：田口一登、さはしあこ、岡田ゆき子、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容

名古屋市の「環境科学調査センター」環境科学調査センターを訪問し、地域環境対策課長や名古屋市環境科学調査センター所長から説明を受けました。

- ・ 名称が変更され、玄関表示も「調査センター」に変わっていました。
- ・ 屋上にはPM2.5の成分分析を行う測定器があり、24時間おきに交換するフィルターで濃度を測定します。名古屋の10年間のデータを国の会議に報告し研究の成果が、環境省のPM2.5成分測定の指針にも生かされたと研究員より伺いました。他にも酸性雨や粉じんを調べる測量機などが屋上にありました。
- ・ 分測定器)。調査センターでは今年度から3年間かけて、PM2.5の発生源と健康影響に関する研究に取り組むそうです。空気の粒子が直接原因となるのではなく、何かに反応して分子ができてしまうので解明する研究もしています。
- ・ ミジンコ・ゼブラフィッシュ・藻類などを使って工場排水などの毒性影響を評価するWET（総排水毒性試験）は何千というゼブラフィッシュの数を手作業で数えているところでした。非常に根気のいる作業です。
- ・ 常時監視システムの測量機は市内に17ヶ所設置し、コンピュータ室で管理されていました。は確立するための基礎的な研究も拝見しました。また、今年度から同調査センターに移った大気汚染などの常時監視についても説明を受けました。公害・環境問題に関する地道な研究や公害監視を行う調査研究機関を名古屋 市が自前で持っていることは、市民の生活環境と健康を守るために欠かせないということ、今回の視察で実感しました。

